



七里小だより

2月号

さいたま市立七里小学校
令和7年1月31日

2024年小学生が選んだ「今年の漢字」トップ3は「楽」「金」「新」

さいたま市立七里小学校
校長 舘 和 成

令和7年が始まり、早いものでもう1か月が過ぎました。2月は「如月（きさらぎ）」とも言います。ただ、私もそうですが、漢字そのものからはどのような意味を示しているのかが分かりにくいかもしれません。「如月」の由来を調べてみますと、まだまだ寒さが厳しい時期のために、更に衣を重ね着するという意味から「衣更着（きさらぎ）」になったという説が有力とされているそうです。「如月」の漢字は、中国の2月の異名「如月（にょげつ）」が由来になっているようです。

さて、昨年末に毎年ある「今年の漢字」が京都の清水寺で発表され、ニュースでも報道されました。2024年の漢字は「金」の文字が選ばれました。「今年の漢字」は、京都市に本部がある日本漢字能力検定協会が、その年の世相を表す漢字一文字を募集し、最も多かった字が選ばれているそうです。実は、小学生、中学生それぞれが選ぶ「今年の漢字」も発表されています。「進研ゼミ小学講座・中学講座」が、日本漢字能力検定協会が主催する「今年の漢字」の一環で、小学生、中学生それぞれが選ぶ今年の漢字を全国の会員から募集し、昨年は、12月13日にその結果を発表しました。小学生が選んだ2024年今年の漢字、1位は「楽」でした。「コロナがおさまって、いろいろな行事を楽しめたから」「友達や家族と楽しく過ごせたから」等の理由からでした。2位は「金」、3位は「新」。「金」の理由は「国際的なスポーツの大会で日本人選手が多くの金メダルを獲得したから」「政治とカネや物価高のニュースが多くあったから」、「新」の理由は「お札や首相などいろいろ変わって、新しくなったから」といったものでした。中学生が選んだ漢字の1位は「新」でした。これらの結果について、「今年の漢字」を主催する日本漢字能力検定協会の山崎信夫理事長は「心に刻まれた出来事から一字を選ぶ様子が目に浮かびました。また学年が上がるにつれて、理由として複数の出来事が挙げられていたり、使われている語彙が難しいものになったりと、世の中を広く見渡す目や伝えたいことを表現する漢字・語彙力が着実に養われている様子を見て取ることができ、とても頼もしく感じました」と感想を語ったそうです。昨年は、元旦に大きな地震があり、他にも悲しい気持ちになる事故や事件のニュースが大きく取り上げられたこともありました。そんな中でも子どもたちが、身近な楽しかったことや国際的な舞台での日本人の活躍などに目を向けて、楽しい気持ちや嬉しい気持ちを大切にしていることを感じて、私自身も子どもたちを見習い、楽しい気持ちで前向きに日々を過ごしていかなければならないと元気をもらった気持ちになりました。そして、子どもたちが多くの時間を過ごす学校が、子どもたちにとって、できた喜びや友達と過ごす楽しさを多く感じる場にしていかなければならないと強く感じました。

先日1月11日の学校公開日では、本校学校運営協議会委員の皆様、おやじの会の皆様、保護者の皆様、多くの皆様に御来校いただきました。ありがとうございました。2月も引き続き、保護者の皆様、地域の皆様の本校教育活動への御理解と御支援、御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

保護者の皆様におかれましては、3学期も引き続き、質問や心配なことがありましたら、学校まで御連絡ください。また、お子様の普段の様子を学校に見に来ていただくことも可能ですので、その際は職員室までお声掛けください。